

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信			
主な取組	芸術文化国際交流(書道) (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	13人 派遣人数	20人			→	→	県
	高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	4,296	4,294	書道分野で活躍する高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。 本事業はH24まで「沖縄県高校生国際文化交流派遣事業」として実施したが、H25から「グローバル・リーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)」に本事業を統合し継続。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣人数 (国際交流事業への派遣者数)			20人 (27年)	20人 (27年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	<p>高校生の派遣人員をH27も20名で実施した。</p> <p>台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国語文学科にて張丙高教授からデジタル書法の指導を受け、基礎基本の大切さを実感するとともに、書の文化にも違いがあることに驚いた様子であった。</p> <p>外国との文化の違いやコミュニケーションをとるには英語力が必須であるということを感じ、これから英語を学ぼうとする姿勢がみられた。</p> <p>また、実際に見聞きすることで相互理解が進み、国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。</p> <p>さらに、事後研修を合同成果報告会という形で、実施することで他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。</p>			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	4,447	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①事前研修で体調管理のため、うがい、手洗いの徹底を指導する。また、現地で必要に応じてマスクの着用をさせるようにする。</p> <p>②事前調査で、研修の際の移動時間帯に移動するなど、現地での情報収集をしっかりと行って、研修時間に影響が出ないようにする。</p> <p>③集団行動がとれるように、事前研修で宿泊研修を実施するなど、研修生同士の理解を深め団結を強める。</p>	<p>①うがい、手洗いが体調管理に大きく左右することを説明し、研修時に確認を行った。また、保護者にも家庭での体調管理を依頼した。</p> <p>②グループミーティングや全体の反省会でリーダーを中心に自分の行動の振り返りを行わせた。</p> <p>③糸満青少年の家で2泊3日の宿泊研修をおこなったことで、研修生徒及び引率教師の絆を深め、お互いの相互理解や団結力を強めることができた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人 (23年度)	321人 (27年度)	350人	311人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>書道分野は平成24年度実績13名、平成25年度実績20名、平成26年度20名、平成27年度20名を台湾へ派遣した。今後も毎年20名を派遣していく予定。</p> <p>派遣団員は、貴重な国際交流を体験したことで、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、少なからず海外(外国)への関心が高まった。</p> <p>今後も、本事業の取組を継続していくことで、平成28年度目標値の達成は可能と思われる。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟及び専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。 ・環境の変化により生徒が体調不良になることが多い。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
--

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。
- ・台風が襲来しやすい時期を考えて、本研修の日程を組む必要がある。
- ・交通状況等により研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。

4 取組の改善案(Action)

- ・メンバーも変わることが多いので、昨年度の実施を検証し、課題点を洗い出したうえで、話し合いの場を設定し、実施に向けた計画をたてる。
- ・うがいや手洗いを徹底するとともに、持病のある生徒は担当の医者に看てもらったうえで薬を処方してもらするなど、万全を期して本研修を迎えるようにする。
- ・平成27年度の反省を活かして、事前調整のときは、綿密に行程等を検証する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信			
主な取組	芸術文化国際交流 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	56	
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生をシンガポール等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	60人 派遣数				→	→	県
	高校生をシンガポール等へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	21,397	21,294	「音楽」「美術・工芸」「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をシンガポール及びオーストリアへ派遣し文化交流を実施した。派遣人数について、計画値60人に対し、実績値59人となった。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣人数 (高校生の短期研修)			60人 (27年)	59人 (27年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能の各分野について、総勢59人を派遣することができた。(期限までにパスポート取得できず、辞退が二人でたが、一人次点の生徒を派遣) 参加生徒は、外国でのコミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、相互理解が進んだ。また、大きな事故やけが、病人もなく、派遣生徒全員が現地の学校との交流やレッスンを受講できた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	28,281	芸術分野で活躍する高校生を海外へ派遣し文化交流を実施する。 ①郷土芸能分野をシンガポールへ派遣。(20名×1) ②音楽及び美術・工芸分野をオーストリアへ派遣(20名×2) 合計=60名	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①見学箇所の移動距離や数を再検証し、時間的なゆとりをもたせ詰め込み過ぎないようにする。</p> <p>②派遣先国について、安全性及び先進性を考慮し、美術・工芸、郷土芸能分野ではシンガポール以外の国についても検討する。 音楽分野では、生徒への研修効果が高かったオーストリアとの交流を継続するが、外交情勢を見極め、安全性については常に検証を行う。</p> <p>③研修を質の高いものにするため、事前研修を現地で発表する実技だけではなく、交流先の歴史、文化や考え方の違いなどについても取り入れていく。</p> <p>④交流先校の確定について、県の出先機関(県事務所)や関係部署に協力を依頼する際に、前年度の引率教員及び研修生からのアンケートを基にフィードバックを行い、交流先校や研修内容の変更を検討する。</p>	<p>①事前調査で行程を検証し、ゆとりを持たせた日程にした。</p> <p>②ヨーロッパの文化に触れ、生徒たちのモチベーションと技能の向上をより深化されるために、平成28年度から美術工芸の派遣先をオーストリアに変更する。 音楽分野では、研修効果が高いので、継続してオーストリア研修を予定しているが、国際情勢による安全性に様子を伺いながら実施する。</p> <p>③各部門とも事前学習会を10回前後開き、その中で実施国の文化や歴史に精通している方を講師として招き、勉強会をおこなったり、語学研修を実施した。</p> <p>④昨年度のアンケートより、音楽部門においてより中身の濃い研修会実施のためには、ヨーロッパが好ましいと判断し、27年度の実施国を引き続きオーストリアとし、本研修を実施した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人 (23年度)	321人 (27年度)	350人	311人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>前年度に引き続き、音楽、美術・工芸、郷土芸能3分野59名の派遣を計画した。現状値は、前年度までの累計242人に平成27年度の79人(書道分野20人を含む)を加え、321人となっている。</p> <p>派遣された高校生は、この貴重な国際文化交流をとおして、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、海外(外国)への関心が一層高まった。</p> <p>今後も、本事業の取組を継続していくことで、平成28年度目標値の達成は概ね可能と思われる。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は、昨年度と同様に、美術・工芸と郷土芸能をシンガポールへ、音楽はオーストリアへ派遣した。交流先が分散したことで、交流先が増え、調整に要する担当者の負担が増えている。 ・本研修先は環境が変わるので、インフルエンザや風邪などの病気をすることがないように事前の注意が必要である。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の派遣先であるオーストリアはヨーロッパの中では比較的安全だと言われているが、今後も社会情勢に十分注意し、受け入れ先国の情勢を注視する必要がある。 ・外国内の移動距離が長くなるため、生徒に体力的な負担がかかる。
--

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・体調を崩す生徒がいないように、指導を行う。同時に、マスクの着用を徹底する。
- ・美術・工芸と郷土芸能それぞれの分野ごとの交流先の受入体制に違いがあることから、実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流先の検討を行う。

4 取組の改善案(Action)

- ・体調を崩す生徒がいないように、うがい・手洗いの徹底や、事前にインフルエンザ注射を打つように指導を行う。同時に、マスクの着用を徹底する。
- ・派遣先国について、安全性及び先進性を考慮し、郷土芸能分野ではシンガポール以外の国についても検討する。
- ・美術・工芸、音楽分野では、現地交流校や実技体験の受け入れが困難なため、オーストリア以外の国についても検討するが、外交情勢を見極め、安全性については常に検証を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流		
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化			
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信			
主な取組	みんなの文化財図鑑刊行事業	実施計画 記載頁	57	
対応する 主な課題	○沖縄県は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発進力の強化が課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財151件、県指定文化財272件、市町村指定文化財949件を紹介する書籍、5冊を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布する。さらに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			県内指定文化財紹介書籍の刊行 (30年までに6冊)			→	県
担当部課	教育庁文化財課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
みんなの文化財図鑑刊行事業	14,803	8,518	国指定文化財及び県指定文化財のうち、223件の文化財の写真撮影を行った。また、詳細な情報が少ない文化財についての情報収集を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	平成27年度は26年度に収集した指定文化財の情報と策定した編集・刊行計画に基づいて、沖縄県に所在する223件の文化財の写真撮影を行った。詳細な情報が少ない文化財についての情報収集も行った。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
みんなの文化財図鑑刊行事業	12,640	・平成28年度は26年度に収集した、指定文化財の情報と、策定した編集・刊行計画に基づいて写真撮影と原稿執筆を行う。ただし、情報量の少ない文化財については引き続き、情報収集を行う。 ・編集会議を各週で行い、各分野の進捗状況等を確認する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①普及書の内容は、専門用語を出来るだけ使用せずに文体を平易にするとともに、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする。</p> <p>②義務教育が終了する中学生3年生をメインターゲットとし、基礎的な学力でも内容を理解できるようにする。このことによって、文化財普及書の分かりづらさを改善し、読者層を広げるとともに、学校教材としての活用も視野に入れる。また、知識のある読者でも楽しめるよう複数の内容から構成する。内容は、中学生が楽しめる基本解説をメインに、より専門性の高い専門コラム、文化財を視覚的に紹介するトピックの三重構成とする。</p>	<p>①専門用語使用せず、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする検討を行った。</p> <p>②引き続き、中学3年生が基礎的な学力でも理解できる内容を検討していく。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
県・国指定文化財・天然記念物件数	421件 (25年度)	423件 (26年度)	426件 (27年度)	→	—
状況説明	文化財の指定件数はゆるやかに増加しているが、指定後の文化財の保存・活用が活発に行われているとは言いがたい状況にある。普及書によって文化財に関する情報を発信し、県民の文化財に対する意識を高め、その保存・活用を活発にしていく必要がある。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p>
<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定された文化財の中には、数百点の資料を有する文化財もあり、各文化財ごとに状況が異なるため、写真撮影や説明文の内容など、工夫を要する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらい。 ・写真撮影については、事前調査を綿密に行い、効率化を図る必要がある。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・普及書の内容は、専門用語を使用せずに文体を平易にするとともに、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする。 ・義務教育が終了した中学生3年生が理解できる内容にまとめ、文化財普及書の分かりづらさを改善する。 ・基本解説、専門性の高いコラム、視覚的に紹介するトピックの三重構成とし、より知識のある読者でも楽しめるよう複数の内容で構成する。内容は、中学生が楽しめるとする。 ・写真撮影は、事前調査や撮影工程、文化財の取り扱い等を綿密な計画を立てて効率化を図る。
